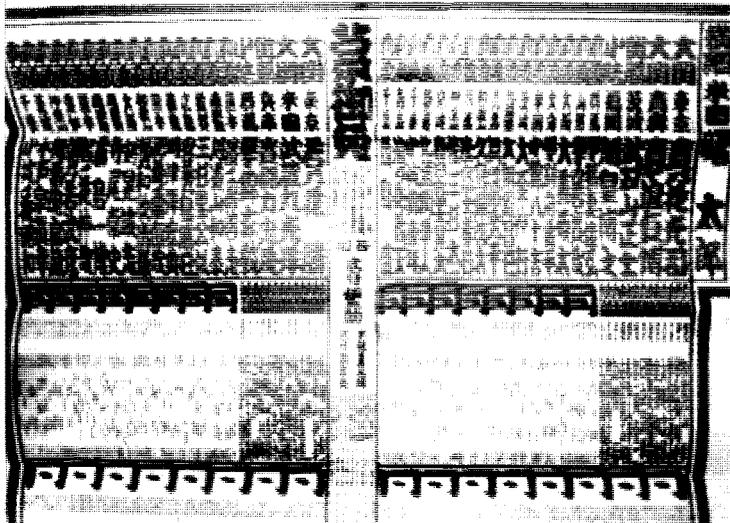




大相撲<サロン・あべの>場所 相撲おもひろ話



平成6年大相撲九州場所番付表

佐藤さんのお友だち。
思わぬゲストにサロン 棧敷は
大いに盛り上がりました。

・相撲との出会い

今も昔も相撲は大好き。子ども頃は、今のよういろいろな遊び道具がなく、走ったり、相撲を取ったり、とにかく自分の体を動かして遊んだ。特に相撲は好きで、もっと強くなりたいと思うほどに興味を湧いて来た。ラジオで聞いたり、テレビで観たりして相撲の取り口を覚えていった。

〈サロン・あべの〉4月の出会い 4月から森ノ宮にある大阪府肢体不自由者協会・障害者自立生活支援センター「いきいき」の代表を平成16年4月17日(土) 〈サロン・あべの〉4月の出会いはなさっています。この山浦さんの「大相撲(サロン・あべの)場所——相撲おもひろ話——」と相撲好きは半端ではありません。そして、この日一緒にいたのは、元力士の佐藤互さん。山浦孝臣さんにお話を伺いました。山浦さんは、今年の(四股名)若瀬川剛充)ご夫妻と

・おもしろ話

好きな相撲取りの一人に第45代横綱若乃花がいる。初代若乃花は、土俵の鬼とか足の裏に目があると言われていた。

若乃花は子どもの時から相撲好き。10人兄弟の長男であった。10番目は貴乃花。この家族は青森で農園を営んでいたが室戸台風で大被害を受け、北海道に移住した。その頃、少年だった若乃花（本名

「花田勝治」は、生活のため、船に石炭の積み下ろしをする仕事をしていた。天秤棒で50貫（187.5キロ）もの石炭を運んでいた。この時鍛えられた足腰の強さが認められて、相撲界にスカウトされた。母は家を出たら少々の事では帰って来られないようにと、盛大な送別会を開いて送り出した。二所ノ関部屋に入門。昭和33年1月、昭和生まれで初めて横綱になった。

弟の大関貴乃花の息子は、兄弟横綱を張った若貴。若乃花の甥に

当たる。この一家は大相撲界の歴史に長く刻み込まれるに違いない。若乃花は引退後、二子山部屋を起こし、血が出ているのは生きて

いる証拠と厳しく後進を指導。多くの実力のある力士がこの部屋から誕生した。一方弟の貴乃花は、藤島部屋を起こした。行司や呼び出しの中にも個性的な人がいた。

初代若乃花時代に行司19代目式守伊之助がいた。ある時、勝負が終わった後、勝ち力士の名前を言うべきところ、負けた方の名前を言ってしまったので、とつさに「○○じゃない、あなた！」と勝ち名乗りを上げた。このことがあつてから、じゃないのことがあつてから、じゃない姿が今も目に浮かぶ。

佐藤 互さんがお相撲さんのころ



わかせがわよしみつ
 四股名・・・若瀬川 剛充
 生年月日・・・昭和 37年 7月 28日
 出身地・・・山形県酒田市
 初土俵・・・昭和 53年 3月
 所属・・・伊勢ヶ濱
 新入幕・・・昭和 58年 1月
 最高位・・・前頭筆頭 最終 平成 4年 7月
 通算成績・・・33場所 216勝 267敗 12休 金(大乃国)1
 得意手・・・右四つ、寄り
 身長体重・・・189cm 148kg

大兵で腰の重さと粘り強さを生かした巧い取り口で、玄人ウケするお相撲さんでした。が、なぜか、小兵には苦戦していたようです。左膝関節の負傷や糖尿病に苦しみながらも、病気を克服して幕内に定着していたのは立派としかいえません。テレビ機数のファンにはわかりませんが、温和な性格で笑顔を絶やさなかった、とも聞きました。

のある人だった。真つ白なあご髭を震わせて抗議する伊之助の姿が今も目に浮かぶ。「脇役」ということでは「呼び出し」がある。私の記憶に深く残るのが「呼び出し小鉄」だ。彼ほど一級の芸術だった。こんなにインバクトのある呼び出しが今いるだ



「相撲おもしろ話」の左から山浦さん、佐藤さんご夫妻

ろうか？ 小鉄の美声が耳に響く。

他に、個性的な関取の話。

土俵には米がこぼれていると言われて努力する話。

土俵周りを巡る懸賞の内容やその数で、世の中の景気を占ったり、企業の経営姿勢が伺える

話。

相撲取りの腰痛や糖尿病、高血圧など病気の話。

引退後年寄り株を取得する話。などなど、おもしろ話は尽きません。

せん。

休憩後、参加者から感想や特別ゲストの佐藤さんに質問が出

ました。何といつても、元力士ですから、質問にも熱が入ります。

——相撲界に入る時と、辞める

時の思いは・・・？

——相撲界に入る時はここでしか生きられない、後へは引けない、意地でも、という気持ちで頑張った。辞める時は、人にもよるが、私は体力の限界より気力の限界を感じて引退を決めた。

また、後輩に教えるのは難しい。厳しすぎても伸びない。教えなくても出来ない子もいる。素直に人の話を聞く子は伸びる。そう

いう子は基本を学びながら自分で考えて努力するので伸びも早い。

——仏壇返しという技・・・？

——これは、相手力士をいったん自分の方へ呼び込んでおいて、

思い切りひっくり返す。彼我に

よほどの実力差がなければ決まらない大技だ。「仏壇返し」別名

「呼び戻し」とも言う、

——思い出に残る取り組みは？

——ほとんどみんな憶えている。

横綱千代の富士が全盛のころ、右からの上手投げを打って、左手で相手の首根っこを押さえてねじ伏せるように投げる千代の富士の技を称してウルフスベシャルと呼ばれていた。横綱と対戦が組まれ、付け人に、若瀬川スペシャルで決めてくるからな、と、勇んで土俵に上がり、すばやく上手を取り、投げを打って頭を押さえたが、横綱は落ちない。

● サロンの **絵はがき** ●

5枚1組 ¥180-

結局ウルフススペシャルで負けた。

——両国に行ったとき、大柄な主人の下着を買いたくて、相撲取りの服屋を探したが見つからなかった。

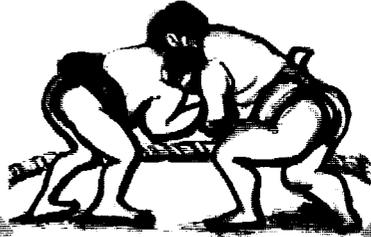
——両国では誰でも知っているライオン堂がある。ここは力士御用達で、胸囲100センチ以上のビッグな下着を売っている。

——今日は得をした。髭の伊之助、蜂矢、大内山、初代若乃花など、懐かしい角界の名前が聞けたし、テレビで観ていた若瀬川関に会えたし、美しい奥さんにもお会いできた。

など、たくさんのお話を聞かせていただきました。佐藤さんは、にこやかに楽しく話をされて質問にも丁寧に答えていただきました。角界で心技体厳しく精進されてきたお人柄が伝わった（サロン・あべの）4月場所でした。

参加者19名（山村貴司）

最近、手刀をめぐって
何かとにぎやかなことですが



諸説あるようですが、大方はこの解釈になら
っているようです。

この手刀の始まりは江戸時代にさかのぼり
ます。もともとは弓取り式をする力士が行司
から弓を受け取る時、また千秋楽「是より三
役」で勝った力士が行司から弓や矢を受け取
る時にのみ行う所作でした。ですが昭和17年
(1942)、名寄石なよろいし(当時大関)が取り組み
に勝って懸賞金を受け取る時にもこれを行
い、その様が優雅で、威厳に満ちているとい
うことで、以後他の力士も真似をするようにな
ったといわれています。しかしながら、そ
れが義務づけられることはありませんでした。昭和41年(1966)に、礼儀作法を重ん
じる日本相撲協会が、「懸賞は手刀を切って
受け取ること」と通達を出して以降、この作
法は定着したようです。

作法通り感謝の気持ちが表示できれば、手
刀を切る手が、左でも右でもいいと思うので
すが。

ちなみに、わたしも左利きです。(石)

勝ち名乗りを受ける力士が、軍配の上に乗
せられた懸賞を受け取る時手刀を切りま
す。相撲の礼儀作法の一つです。左、右、真
ん中の順に手で空を切り、行司から懸賞金を
受け取る手の動きは、勝利の三神、つまり、

- ・ 左かみむすびのかみ 神産巢日神
- ・ 右たかむすびのかみ 高御産巢日神
- ・ 中あのみなかむすびのかみ 天御中主神

誰でも参加できる場所へ

第24回

2年間を振り返って

林 典生

最後に、日本におけるコミュニティガーデンは全てが成功しているわけではなく、むしろその活動によってはガーデン自体がなくなることもあるという事例を紹介して、現状を知ってもらいたいと思います。

母校・大阪府立大学で、私がコミュニティガーデンの研究を行った後に、農学部のある先生が大学の付属農場でコミュニティガーデンを設けて、地域住民に開放して実践活動を行っていました。

ところが、大学の上層部の方から、大学の資産である付属農場を地域住民に貸し出す

るとはという話になり、そのコミュニティガーデンが取り潰されて、結局、大阪府の財政難の問題と絡まり、その場所はある民間企業に売却されて、建売住宅が建ってしまいました。

私はこの話を聞いたとき、かなり複雑な心境になりました。つまり、世間の方々のコミュニティガーデン活動自体認められないという人がおられるという事実を改めて認識するとともに、私が研究してきたコミュニティガーデンの実践活動をようやく大学で出来るようになり喜んでいましたが、逆に重要な財産である付属農場の売却につながってしまったことにショックを受けました。

日本で農地が潰れる理由のほとんどが宅地開発によるものであるという農林水産省の統計が出ていますが、このような事実を目の当たりにして、しみじみ考えさせられました。やはり、日本でコミュニティガーデンを設置・運営を行うには実践場所を勝手に売却したり、変更できないといった法的な支援と、活動に対する寄付の税金控除や活動に対する補助金といった経済的な支援の二つを併用し

ていかないと、どんなに熱意を持って、よい実践を行ったとしても活動自体長く続けないのは難しくなると思います。

逆に、これらの支援を勝ち取るには、良い実践を築き上げていく中で、行政や民間団体といった外部の方々に認知されることが、必要となっていくきます。とにかく、実績の積み重ねと周りへのPR、これを車の両輪のように進めていかないと、日本のコミュニティガーデンの良い実践に結びついていけないと思います。

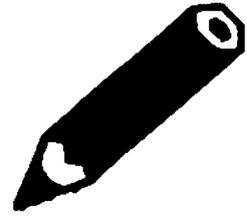
2年間ありがとうございました。連載を振り返ってみて、読者のみなさまに満足いただけたかどうか不安ですが、私自身この経験を生かして、これからもよりよいものを行っていきたいと思います。

お読みいただいたみなさまも、機会がありましたら、このことを思い出して実践してほしいと思います。(終)

今年も「さるん亭」が開店します

そのその品物のご用意、お願いします

4



邦子、
..ん歳の手習い。

1 ボランティアをめぐる情勢

まず、ボランティアをめぐる情勢は、最近の福祉の動きの大きな変化の中にあります。

一つは、NPO法成立によるボランティアの形でのNPO（非営利組織）といわれる加盟団体の会です。これは利益を追求しない民間の自発的な組織です。NPOが注目を浴びたのは、いろいろなボランティア団体が活躍した阪神淡路大震災です。アメリカにはたくさんNPOがあり、社会的に認知されているので、税の控除などの特典があります。しかし日本のNPO団体には税の控除はありません。自発的な市民活動に対して、仕事をしやすくするためにも、税の控除などの何らかの援助が必要です。そういう意味でも、ボランティアの社会的認知がされて、ボランティアの社会活動とか、市民活動への期待が非常に高まっているといえます。

2番目は、社会福祉基礎構造改革の一つである介護保険法です。福祉の世界を大きく変えていくほど、介護保険というのは大きな影響を持っています。特別養護老人ホームや在

今年も「さるん亭」が開店します
そろそろ品物のご用意、お願ひします

宅の高齢者、寝たきりの老人のサービスを基本的には介護保険でやっていこうというものです。介護保険は措置方式から契約方式への転換といわれています。介護保険実施以前は、福祉サービスは、国の措置費というのがあり、国の措置の基準によってサービスが提供されていました。民間の特別養護老人ホームには、措置費があり特別養護老人ホーム一つの基準がありました。例えば、寝たきり老人3人に対して1人の指導員が付くとか、部屋は全て同じくらいの部屋でというような基準の下で、国の責任でやっていこうというのが措置方式です。しかし、この措置方式には、選択権がないということで批判され、基礎構造改革が行われました。ある地域の老人ホームに入りたい時に、A、B、Cの三つのうちで、Cの老人ホームにぜひ入りたいと思っても、選択権がありません。それで、措置ですから、行政処分ということで福祉事務

カナダ研修旅行では、地域に根ざしたボランティア活動が大変印象的でした。
今回は、日本のボランティア活動について考えてみたいと思います。夫の最後の講演となったのは、「求められるボランティア活動とは」（1999年1月21日）でした。介護保険施行前でもあり、少し内容は古くなってしまうかもしれませんが、その内容は今でも通用する部分も多いので、参考までに紹介したいと思います。

求められるボランティア活動とは

所に申し込みにいけば、「あなたはここです」ということで決まってきました。

介護保険によって、措置の方式を契約方式に変えていこうということです。契約方式は、保険料を払って、要介護の状態が起れば給付されるものです。ところが、サービスの退化ということに繋がる不安があります。福祉はお金を払って良いサービスを受けられるというよりも、お金のない本当に困っている人の福祉のニーズの高い人がよいサービスを受けられるようにするのが一番の在り方です。それが崩れる可能性があります。

福祉の情勢の変化の中で、夫はいろいろな不安を持っていましたが、そのような状況の中で、求められるボランティアは何であるかを次回に紹介したいと思います。なお、現在の老人ホームなどの長い待機リストを考えると、措置方式で選択できないという点については、サービスの不足が原因であり、たとえ介護保険制度であってもサービスが不足していれば、選べないという事態が起こっています。選べるサービスの量とサービス内容の充実が望まれます。

(定藤邦子)

立春から数えて88日目の5月2日前後から新茶の摘み取りが始まる。新茶の摘み取りといえは「茶摘み歌」にも歌われているように、初夏の青空の下でかすりの着物に赤いタスキをかけ、菅笠をかぶった娘さんたちが茶畑でお茶を摘み取っている姿が浮かんでくるのである。

新茶とは言うまでもなく、お茶の新芽を摘んで、その年の最初に作られたお茶のことで、香りを愛で、味わいに心を通わせることである。そしてまた新茶のことを走り茶ともいう。走り茶の他に走りソバや走りイモということばもあるが、この「走り」とは「はしりぎ」の略で、「初(はつ)」とか「新しい」という意味である。

日本人はお茶が好きでよく飲むが、今、ロシアでも「日本茶ブーム」だと言われている。日本のお茶はおいしくて健康にも良いということでモスクワに日本茶専門の店が出来ているようだ。こうしてお茶を通して日ロ両国の友好が深まれば大変よいことだと思う。

毎年、5月の中頃に宇治に住んでいる兄夫婦から新茶が送られてくる。この新茶を早速、羊かんやお饅頭などの和菓子といっしょに頂くと、疲れをいやし、何とも言えない快い気分

させてくれる。

最後に私の拙い句を披露して、今月号を欄筆したい。

香りよし 舌まろやかな 新茶かな

恵雄

晴れのち晴れ 68

新茶

稲垣 恵雄



同窓会名簿

中学時代の同窓会名簿が初めて届いた。卒業して三〇年目の記念なのだろう。遠くに住んでいるために同窓会には出席できなかったが、名簿の到着はなんだか嬉しくて、なつかしい友人からの手紙の封を切るような気分になった。

いまだどんな暮らしをしているのか、そんな詳しい記述はどこにも無い。名前と住所しか載っていない名簿だった。しかし、私は、その懐（なつ）かしい名前のそばに小さく「死亡」という二文字が記されている行をいくつも見つけていた。その二文字は、私の親しかった一人の友人の名前の横にも並んでいた。その友人は、私もし同窓会に出席していたら、私の肩を一番に叩いてくれるはずの人だった。大きな声で笑う少年で、ときどき鼻

今年も「さろん亭」が開店します
そろそろ品物のご用意、お願いします

がつまったような、唾を口のなかに溜めたような話し方をしていた。親分肌で、私の少し子どもっぽいところを小馬鹿（こばか）にしながらも、私の周囲を明るい笑いで飾ってくれたのは、いつもこの少年であった。

どうして死んだのだろう。私は考えても仕方無いことを、名簿をみつめながら、しばらく思いめぐらしていた。病気だったのだろうか。健康そうに見えたが、そういえば、内臓の病気で入院したこともあると聞いたような気がする。彼には子どもがいたのだろうか。亡くなったとき、子どもたちはもう充分大きくなっていただろうか。

遺された家族がいるのなら、会ってみたいと思った。彼は中学卒業後、どのような人生をたどったのだろうか。彼のことを大切な友人だったと認めながらも、中学卒業後はほとんど連絡を取らなかった。彼はどんな学校へと進んだのだろうか。どんな職業に就いたのだろうか。どんな人と出会い、どんな家庭を築き、



どんな父であったのだろうか。私は何も知らなかった。

ただ、その家族に会ったとしても、私が提供できる思い出がどれくらいあるかと考えてみると、意外にもその量は少ない。小学生のころから知っている少年だったのに、思い出せることは彼の笑顔と温かい人柄ぐらいか。声は覚えていても、声で伝えられたはずの言葉が思い出せない。それこそ数分もたたない

お知らせ

<サロン・あべの>6月の出会い

内容…タイチェンマイ「希望の家」

車いすでの訪問記

お客さま…吉岡克彦さん

「希望の家」を支える会々員

日時…6月19日(土)午後1時～4時

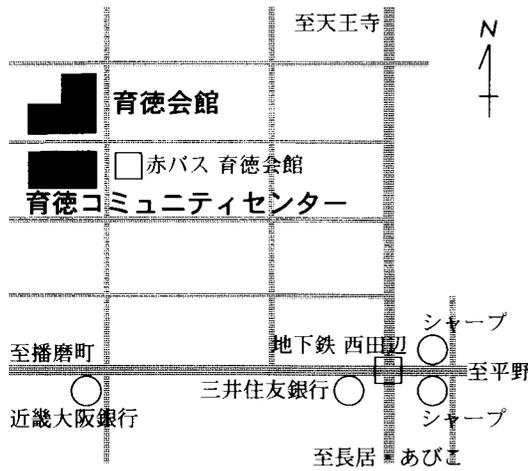
場所…育徳コミュニティセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL 06-6621-1901
 最寄り駅=

地下鉄御堂筋線「西田辺」
 赤バス「育徳会館」下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



*** サロン紙の合本がっほんが出来ました ***

190号(平成14年4月)から214号(平成16年4月)まで、2年分のサロン・あべの紙を1冊にした合本が出来上がりました。サロン文庫に備えておりますので、ご活用ください。

間に、私の彼との思い出は語り尽くされるに
 ちがいない。

しかし、彼と実際に会ったなら、いろいろ
 と話すうちに記憶の糸口がいくらでも見つ
 かっただろう。すっかり忘れていた風景や出
 来事が、きつとたくさん出てきて、あんなこ
 ともあった、こんなこともあったと、飲み屋
 で笑いながら何時間もすごせたかもしれない。
 とすれば、彼の名前に添えられた「死亡」
 の二文字は、そんな私の少年時代を望む一つ

の窓が永久に閉じられたことを告げている。
 過ぎた日を分かち合う人を失うことは、過ぎ
 た日の自分自身を失うことでもある。

思い出はきつと両岸をまたぐようにかかる
 橋のようなものなのだ。岸の片側が失われた
 とき、橋は崩れ、流れのなかに消えていく。
 水辺には橋の名残が浮かんでいたとしても、
 あまりに頼りなくて橋の姿には結びつかない。
 いっしょか橋があったことさえも忘れてし
 まうのだろう。

(知)

カンパ、切手・お茶・お菓子・輪ゴム・バザー
 用品のご寄贈、サロングッズのお買い求めな
 ど、ありがとうございます。(敬称略・順
 不同)
 秋山紀美子、大和田弓子、風智恵子、
 小西京子、砂脇たけ子、竹村定子、辻本輝子、
 中谷邦子、東百合子、東谷和代、平岡太、
 藤井さゆり、藤田はる、吉原和郎、
 その他の方々。

ありがとうございます。

「大阪府はもう入所施設を作るな！」

～5.25「脱施設・グループホーム拡充を求める対大阪府抗議行動」に
最大限の結集を！！～

大阪府は、今後も施設収容政策を続けようとしています。この間大阪府は、府立3施設（金剛コロニー、砂川厚生福祉センター、身障者センター）の再編計画案を出しました。財政難でこれら3施設を維持できなくなってきたため、各市町村に分散して入所施設を建設し、そこに入所者を移していこうとしています。このままでは府下のあちこちで新たに入所施設が建てられ、障害者はそこに収容されていきます。3施設に入所してきた人にとっては「一生施設の中」、これまで地域で生きてきた障害者も「施設に収容」、とされてしまいかねません。

今年、国は「入所施設の新設には補助しない」との脱施設の方角を明示し、宮城県では「施設解体宣言」を表明、長野県でも西駒郷コロニー再編に向け独自にグループホーム制度の拡充策を打ち出しました。私たちはこれら例もあけて、「グループホームや福祉ホームの建設を基本とした再編計画の抜本的見直し」を強く求めてきましたが、府は「第3次大阪府障害者計画にのっとり3施設を分散させる」「地域移行推進の方角だが現実的には施設がまだまだ必要」との姿勢を崩しておらず、再編に際してのグループホーム等の建設計画も皆無の状態です。

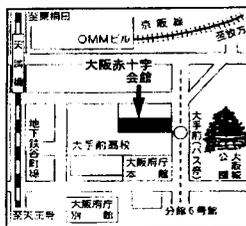
現在、施設で暮らしている多くの人たちは施設から出て地域での生活を希望しています。そうした想いを全く無視して施設がどんどん作られ入所者は移されていくのです。これは障害者の権利をふみにじる暴挙です。また施設再編は入居者に関わる問題だけでなく、府内全ての障害者の地域生活を脅かす問題です。脱施設・地域移行の方角性に逆行する府の姿勢を私たちは断じて許してはなりません。

今こそ、大阪で脱施設・病院の流れを確かなものにしていくために、みんなで「入所施設はもういらない！」「グループホーム・福祉ホームをもっと増やせ！」と、大きな声を上げていきましょう！ 大阪府に対する抗議行動に全力を挙げての結集をお願いします！

日時：2004年5月25日（火）10：00～3：30

場所：10：00～12：00
「脱施設・GH拡充を求める大阪集会」
大阪赤十字会館（日赤会館）3階大会議室

1：00～3：30
「府庁前での大抗議行動」
大阪府庁前および大手前遊歩道にて
（詳細検討中です）



地下鉄・京阪「天満橋」駅下車
徒歩約10分 大阪府庁北側

*参加費無料・雨天決行です。参加申込みは不要です。手話通訳・点字資料あります。
それぞれゼッケンやプラカード等を工夫して持ち寄りました。飲み物や帽子もお忘れなく。

主催：障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議（障大連）
福祉運動・みどりの風
連絡先：障大連 TEL06-6779-8126 FAX06-6779-8109

美智子のこんな話

岸田美智子

抗議行動に、ご参加を
以前、このコーナー
で宮城県が施設解体宣
言をした事はお伝えし
ました。そして、厚労
省も脱施設を打ち出し

て来ています。この流れで大阪府・市、共に脱施設化を打ち出して来ていますが、それを具体的に進めていく計画があまりにもなさすぎるのが現状です。それどころか、私の住んでいるマンションの近所の府立病院裏に、新たな入所施設が建てられる計画が進んでいます。このような計画をどのように私たちは、受け止めれば良いのか？！ もし、入所施設が出来るとするならば、どのような機能や設備が必要か？ 例えば車いすです生活しやすい住居、昼間過ごせる作業所や職場、介助派遣の事業所なども、合わせて考えていかなければ、閉鎖的な今までどおりの入所施設になってしまうのではないかと、危惧しているところです。今、もう一度、入所施設の問題を考える集会（上・チラシ）が開かれます。ぜひ、皆さん、参加してください。

大阪連絡会議（障大連）

TEL 06-6779-8126
FAX 06-6779-8109

今年も「さろん亭」が開店します
そろそろ品物のご用意、お願いします



SALOON

あべのこころ

■「サロン淀川」6月の出会い

日 時：6月20日(日)午後1時30分～4時
 内 容：色で楽しみましょう
 ～博愛のカラーセラピーの活動の紹介～
 パネラー：次田賀代子さんとお仲間たち(NPO色
 とところのネットワークにて活動)
 会 費：なし
 場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
 大阪市淀川区三国本町2-14-3
 問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビュー
 ロー) ☎06-6394-2900
 E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」6月の出会い

日 時：6月12日(土)1時30分～4時
 内 容：紙細工を楽しもう！
 場 所：西区在宅サービスセンター6階
 ボランティア・ビューロー室
 大阪市西区新町4-5-14(西区役所隣)
 地下鉄＝西長堀駅4-A号出口からすぐ
 市バス＝地下鉄西長堀駅から徒歩すぐ
 ☎06-6539-8075
 会 費：なし
 問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・ひらの」6月の出会い

日 時：未定
 内 容：未定
 パネラー：未定
 会 費：未定
 場 所：未定
 問い合わせ先：ひらのボランティアルーム
 大西 ☎06-6795-2525
 安達 ☎090-7755-7899

■「サロン・にしよど」6月の出会い

日 時：6月26日(土)午後1時30分～3時30分
 内 容：
 ゲスト：

場 所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」
 大阪市西淀川区千船2-7-7

会 費：なし

問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
 ☎06-6494-0635
 中本 ☎090-9864-9678

■サロン「アイ」6月の出会い

日 時：6月12日(土)午後1時30分～4時
 内 容：ボランティアコーディネーターの仕事
 パネラー：武直樹氏
 会 費：なし
 場 所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
 大阪市生野区勝山北3-13-20
 問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビュー
 ロー) ☎06-6712-3101
 ○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
 出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
 ☎06-6755-8574

■「てくてくすみよし」6月の出会い

日 時：6月13日(日)午前11時～
 内 容：お好み焼きパーティ
 場 所：あびさんサロン
 大阪市住吉区我孫子3-10-16
 会 費：2000円
 申し込み締切日：6月5日
 申し込み・問い合わせ先：
 山本篤江 ☎06-6692-8411
 携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」6月の出会い

日 時：6月6日(日)午後1時30分～4時
 内 容：ビデオ鑑賞「千と千尋の神隠し」
 会 費：なし
 場 所：鶴見会館2階
 大阪市鶴見区横堤5-5-51
 問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビュー
 ロー) 田村 ☎06-6913-7070

■「サロンいたみ」6月の出会い

日 時：6月12日(土)午後2時～3時
 内 容：ラテン音楽の調べ
 演奏＝SANNGAMUGA
 場 所：伸幸苑 伊丹市寺本6-150
 問い合わせ先：高原 ☎072-772-3852

声で読書のお手伝い



音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第214号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第214号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけつと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田 (☎06・6691・1028) まで。

寄りみち



一方の手を地面と平行に開いて、もう一方の手で、それを垂直にトンと、たたくような仕草をすると、「ありがとう」の手話です。大相撲で試合に勝った力士が、軍配の上に乗せられた賞金を行司から受け取るときに、手を刀に見立てて、手刀を切る動作をします。これには感謝の気持ちを表す意味があります。相撲界のしきたりを真似たのが、手話の語源になっていると聞いたことがあります。(石)

<サロン・あべの>VOL. 215 発行：平成16(2004)年5月15日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>

年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)